

浜の活力再生広域プラン

1 広域水産業再生委員会

組織名	相模湾広域水産業再生委員会
代表者名	会長 福本 憲治（横須賀市大楠漁業協同組合 代表理事組合長）

広域委員会の 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・横須賀市大楠地区地域水産業再生委員会（横須賀市大楠漁業協同組合、横須賀市） ・江の島片瀬地区地域水産業再生委員会（江の島片瀬漁業協同組合、藤沢市、江の島漁業株式会社） ・佐島漁業株式会社 ・あしな漁業株式会社 ・神奈川県漁業協同組合連合会 ・神奈川県（環境農政局農政部水産課）
---------------	--

対象となる地 域の範囲及び 漁業の種類	<p>横須賀市大楠地区（横須賀市佐島、芦名、秋谷、佐島の丘、湘南国際村、長坂、大田和、子安、荻野の区画）</p> <p>藤沢市江の島片瀬周辺地域（藤沢市片瀬、片瀬一丁目～五丁目、片瀬海岸一丁目～三丁目、江の島一丁目及び江の島二丁目の区域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業の種類：定置網（大楠3経営体、江の島片瀬1経営体） ：刺し網（大楠47名、江の島片瀬18名） ：一本釣り（大楠82名、江の島片瀬41名） ：しらす船びき網（大楠5名、江の島片瀬2経営体） ：小型まき網（大楠2経営体、江の島片瀬1経営体） ：はえ縄（大楠21名、江の島片瀬8名） ：潜水（大楠23名、江の島片瀬3名） ：養殖若布（大楠9名、江の島片瀬19名） ：採介藻（大楠74名、江の島片瀬18名） ：蛸壺・籠（大楠60名） ：ひき網（大楠3名） <ul style="list-style-type: none"> ・全体漁業者数 <p>横須賀市大楠地区：正組合員127名 准組合員118名 江の島片瀬地区：正組合員35名 准組合員10名</p>
---------------------------	--

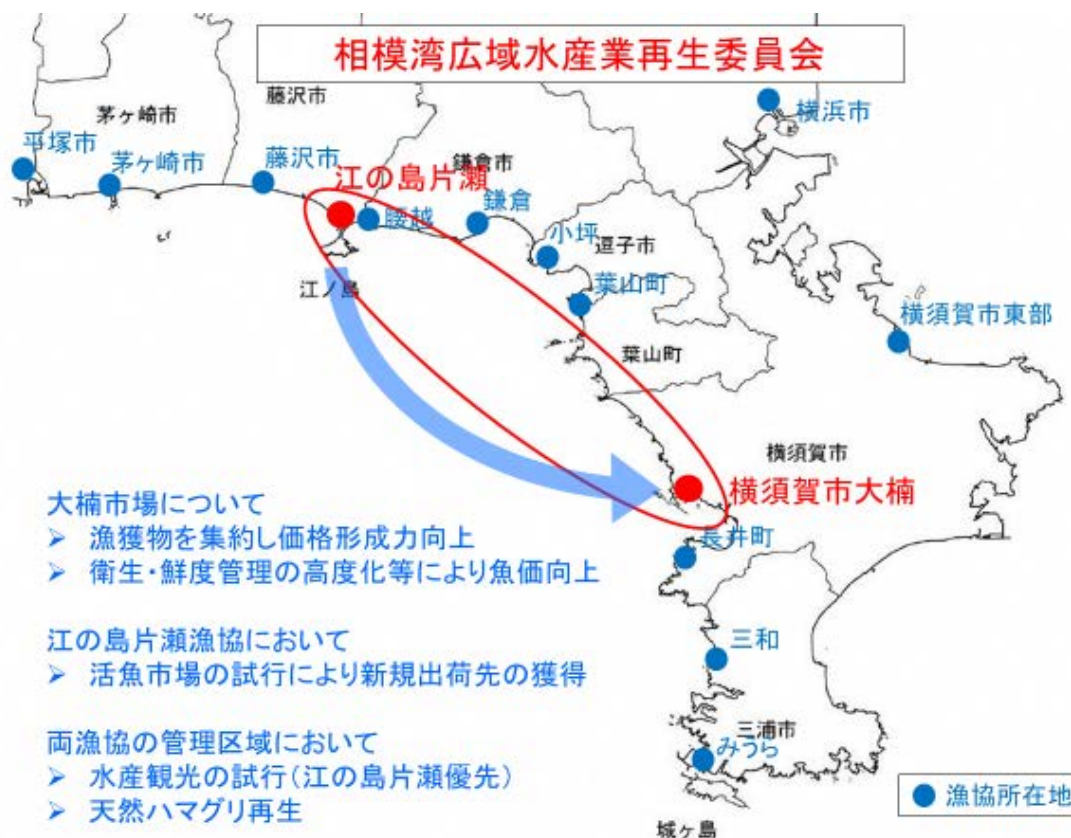
2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

<p>【地域特性】</p> <p>横須賀市は、神奈川県南東部の三浦半島に位置し、市域の東側は東京湾、西側は相模湾に面し、海に囲まれている。さらに、暖流黒潮が岸を洗う暖冬涼夏の恵まれた気候、緑豊</p>

かな自然環境の中、本市の水産業は都市近郊型漁業として発展してきた。

藤沢市江の島片瀬地区は、古くから蓄積された社寺等文化財がまちの中に存在し、歴史と文化のまちを形成しており、現在は湘南海岸や風致地区、景観地区に指定している江の島の自然環境を活かした首都圏有数のレクリエーション拠点が形成されている。本市のイメージを代表する地区のひとつで、近年でも観光施設のリニューアルや片瀬漁港の整備等が進められ、多くの観光客訪れている。



相模湾広域水産業再生委員会の対象範囲

【対象地域の水産業を取り巻く現状、課題】

横須賀市大楠地区（以下「大楠地区」という。）及び江の島片瀬地区の前面に広がる相模湾の沖合には大陸棚が広く分布し、好漁場が形成されているため、年間 2,000 t 前後の水揚げに恵まれている。

大楠地区の主な漁法は定置網、まき網で、その他、タコツボ・籠、かつお一本釣り、しらす船びき網、裸もぐり等がある。江の島片瀬地区の主な漁業も定置網、まき網であり、伝統的な漁法としては、イセエビの「磯だて網」を中心に、磯場での「テングサ潜り」、「見突き・ツキンボ」、サザエ・アワビの潜水漁業等が行われている。両地区の主な漁獲魚種は、イワシ類（マイワシ、カタクチ、ウルメ）、サバ類（マサバ、ゴマサバ）、ブリ類（ブリ、カンパチ等）、カマス類（アカカマス、ヤマトカマス）、マダコ、カツオ、シラス、アワビ、サザエ等である。また、ワカメの養殖も行われている。

両地区の主幹漁業である定置網は、多額の設備投資が必要で魚群を追跡できない漁法であり、漁獲量は自然条件に大きく左右されることから、効率的な操業体制による経費削減や、改良漁具の導入等により資材費の削減を図り収益力向上に取り組む必要がある。

近年、両地区の定置網におけるウ類による食害が問題視されているが、人材も機材も不足しているため、その実態調査を行うことができず、被害額を算出することができない。

また、WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）で合意された保存管理措置に基づいて設定されている我が国のクロマグロ漁獲上限を遵守するため、当該地域の定置網のクロマグロの混獲回避策の強化が喫緊の課題となっている。

【各浜が有する生産施設や市場、加工・流通機能等に係る機能分担】

横須賀市大楠漁業協同組合地方卸売市場（以下「大楠市場」という。）の周辺には、入札権を持つ飲食店が展開しており、朝どれの魚を食べることができることから人気が高く、地産地消を推進している。

江の島片瀬漁業協同組合（以下「江の島片瀬漁協」という。）の荷さばき所は、殺菌水による活魚水槽を有しており、近隣飲食店への活魚出荷に活用されている。

【産地市場の統廃合計画】

大楠地区では横須賀市大楠漁業協同組合（以下「大楠漁協」という。）により大楠市場が開設されているが、江の島片瀬地区には市場がなく、相対取引により漁獲物を販売している。漁業者は、それぞれ単価向上の取り組みを実施しているものの、地域全体での単価向上の取組が難しい状況にある。そのため、江の島片瀬漁協は、令和2年2月より、組合自営の定置網の漁獲物を大楠市場で水揚げし、相対取引からせり取引へ移行させる取組を試行している。

【意欲ある中核的担い手の確保・育成に関する現状、課題】

大楠地区の佐島漁業株式会社は、会社経営のため若手社員の採用に積極的であり、漁師（個人事業主）の見習いになるのではなく、会社に就職するというイメージを若手に持たせることで、中核的担い手の確保・育成を図っている。

(2) その他の関連する現状等

神奈川県平成30年入込観光客調査によれば、三浦半島地域の延観光客数は1,675万人で、前年に比べ57万人の増加（前年比+3.5%）となった。横須賀市は36万人の増加（前年比+4.4%）となっており、8月から9月に横須賀市内で行われたイベントにより、「三笠公園」、「ヴェルニー公園」、「くりはま花の国」で合わせて21万人増加した。湘南地域の延観光客数は5,241万人で、前年に比べ139万人の増加（前年比+2.7%）となった。藤沢市が191万人の増加（前年比+11.6%）であり、11月、12月に開催された江の島のライトアップイベント「湘南の宝石」が好調だったこと、前年の台風被害による減少からの回復などにより、「湘南海岸・江の島」で185万人増加している。

横須賀市は「よこすかさかな祭り」として、毎年地産地消グルメコーナーや、活気溢れるせり販売、大人気の魚のさばき方教室、さかなのタッチングプールなど子供から高齢者まで楽しめるイベントを開催しており、令和2年度は第19回目となる。

平成21年10月から江ノ島・釣り船「でいとう丸」で『初心者のための船釣り教室』を開催し、令和2年度は第150回となった。平成25年8月からは水産庁の水産多面的機能発揮対策事業の活用を認められたのを機に名称を『江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト（EFP）』と改め、船釣りだけでなく藻場保全活動、海藻シンポジウム（旧わかめの養殖体験）、クリーンフェスティバルとライブ型食育活動を基本理念に活動を広げている。海藻シンポジウムは令和2年度で第13回となる。

両地域ともに日帰り客が増加すると想定され、イベントを通じて横須賀産、江の島産の

産物の知名度を向上させることが可能になる。特に江の島地区は185万人増加であるため、広報効果が高いと予想される。

横浜横須賀道路の釜利谷JCTから新湘南バイパス藤沢IC間をつなぐ、首都圏中央連絡自動車道（高速横浜環状南線・横浜湘南道路）が、令和6年度、7年度に開通見込みであり、さらなる観光客の増加が見込まれる。

三浦地区で延べ1,675万人、湘南地区で5,241万人の観光客が訪れているが、その数と比較すると漁業組合が運営する朝市への訪問客は0人に等しい。観光資源として漁業を整備すれば、相当の観光収入を得ることが見積もられるが、人的資源に制限があり未整備である。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

① 生産体制

江の島片瀬漁協は、漁業者の所得向上を実現させるため、非営利団体としての特性を排除することを目的に、定置網事業を組合事業から切り離し、江の島漁業株式会社に事業承継する。江の島漁業株式会社は、定置網事業のノウハウを有する佐島漁業株式会社の役員を迎え入れ、収益性の向上を図る。

両地区の定置網漁業者は、効率的な操業体制による経費削減や改良漁具の導入による資材費の削減を図り収益力の向上を図る。

② 流通対策

江の島片瀬漁協は、片瀬漁港に水揚げしている漁獲物を大楠市場に集約し、魚価低迷の一因である相対取引からせり取引への移行を進める。

荷さばき機能の集約化に伴い、大楠市場では取扱量の増加が見込まれるが、当該市場は建築から約40年が経過し著しく老朽化しており、衛生管理等への対応が難しいことから、大楠漁協は必要な市場関連施設の整備を行う。

大楠漁協は、買受人の新規参入を促進し、適正な競争原理を働かせることで価格形成力を向上させるとともに、衛生管理・鮮度管理の徹底によるブランド力の向上に取り組む。また、両漁協は、首都圏に位置する優位さを生かした定期的な朝市等漁協直販ルート、インターネット販売による消費者への直接販売など自らが販売先を開拓し、販売先の多様化を図り、収益性の高い販売方法を展開する。

地産地消を促進するため、知名度のあるレストラン等と提携し、キッチンカーやレストラン船等の仮設施設を漁港及びその周辺で展開し、漁協が直営飲食事業を行い、漁獲した新鮮な魚を直接消費者に食べてもらう。

③ つくり育てる漁業による生産量の増加

両地区には、干潟、砂浜、磯根など多様な海域があり、その特性に合わせて様々な漁業が営まれている。両地区の漁業者は、これらの漁場を最大限活用するため、県が策定した「第7次栽培漁業基本計画」に基づき、ニーズが高く、放流効果も高いマダイ、ヒラメ、トラフグ、アワビ類、サザエ等の種苗を放流することで、資源の維持増大と水揚量の向上を図る。また、湘南の新たな名産として期待されているハマグリの子貝を放流し、天然ハマグリを再生を図る。

両地区の定置網漁業者は、ウ類による定置網内での食害実態調査を実施し、その被害状況をまとめるとともに、効果的な被害軽減策を検討する。

また、定置網で漁獲されるクロマグロの資源管理を求められていることから、クロマグロの混獲回避対策を講じないと操業が継続できない事態となる。このため、入網したクロマグロを効果的に選別して良好な状態で放流することが可能な漁業新技術に関する情報収集とその導入を図る。この際、両地区の定置網漁業者は得られたノウハウを共有

し、定置網におけるクロマグロの入網が見られた際、混獲を回避するための取組を行うことにより、適切な数量管理に取り組むものとする。

④ 水産観光

両漁協は、観光産業と連携した定置網見学などの事業を地域間の連携を図りながら展開することにより、交流人口や交流機会増加、地域全体の活性化を促し、漁業者だけでなく飲食産業、観光産業との協力の下、地域全体で販売力の強化に取り組む。

大楠漁協は、生け簀の採算性向上のため釣り堀と併用するハイブリッド型活魚蓄養施設を導入する。

両漁協は、地元の漁業や水産資源に興味を持ってもらうため、地元小中学校の児童生徒にハマグリの子貝放流等を体験してもらう。

(2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

⑤ 中核的担い手の育成

相模湾地域の漁業を維持・発展させていくため、両地区の主力漁業種類である大型定置網を漁協から独立した企業（株式会社）で運営する。意欲のある若者を採用・育成するため、固定給と漁獲高に応じた賞与として収入を保障するとともに、比較的勤務時間を明確にしやすい定置網漁業の魅力化を図る。

直接漁業に従事する部門だけでなく、財務、企画、流通担当など、会社を運営する組織を整備し、意欲ある者の中途採用にも努める。具体的には、漁業以外の分野から企画や経理経験者を採用し、観光漁業の事業化や、漁獲物の高付加価値化などに取り組み、生産性や収益性の高い漁業経営体への転換を進める。将来的にそのノウハウを漁業従事者に継承し、自分たちで新しい漁業を考える体制を構築する。

新規就業者についても、魅力ある収入、具体的な業務と勤務時間、計画的な休暇制度を明文化するなど「若者が就職したい企業像」を明確化し、漁師になるというイメージでなく、漁業をしている会社に就職するというイメージを若者に持たせることで確保していく。特に、ダイビングサポーターとしてアルバイトをしている高校生や定置網ツアーのガイドをしている高校生を正社員として採用するなど、地元水産高校からのインターンやアルバイト経験を通じた人材発掘を積極的に行う。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

・ 神奈川県海面漁業調整規則：第 35 条（禁止期間）、第 36 条（抱卵しているいせえびの採捕の禁止）、第 37 条（大きさによる採捕の制限）

・ 神奈川海区漁業調整委員会指示第 2 号（定置漁業の保護区域の設定）

・ それぞれの漁協で策定した資源管理計画の履行

(4) 具体的な取組内容（年度ごとに数値目標とともに記載）

1 年目（令和 2 年度）

取組内容	(1) 機能再編・地域活性化に関する取組 ① 生産体制 ・ 大楠漁協は、効率的な操業体制による経費削減や改良漁具の導入による資材費の削減等、収益力向上につながる具体的な方策を整理して、関連施策を活用した取組について検討する。
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大楠地区の定置網漁業者は、サワラ等の高単価魚種への転換と資源管理を両立する改良型漁具を導入する。 ・ 江の島片瀬漁協は、漁業者の所得向上を実現させること、非営利団体としての特性を排除することを目的に、定置網事業を組合事業から切り離し、江の島漁業株式会社に事業承継する。 ・ かつお一本釣りの継承を目的に設立したあしな漁業株式会社は、法人としての経営を目指す。 <p>② 流通対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 江の島片瀬漁協は、水揚物を大楠市場へ集約化し、定置網の漁獲物を相対取引からせり取引に移行し、漁獲金額の上昇を通じて、漁業従事者の所得を向上させる。 ・ 大楠漁協は、江の島片瀬漁協の漁獲物の受け入れを前提に、水揚量の増加に対応するため、大楠市場の建屋改修等を計画する。また、将来的な漁獲証明獲得のため「電子入札」の導入を検討する。 ・ 両漁協は、衛生・鮮度管理を目的に「次世代活水器 ディレカ」の導入を検討する。 ・ 江の島片瀬漁協は、都内の活魚販売業者と調整し、新たな出荷先を調査するとともに、江の島片瀬地区に出店意欲のある飲食店を調査する。 <p>③ つくり育てる漁業による生産量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両漁協は、県が策定した「第7次栽培漁業基本計画」に基づき、ニーズが高く、放流効果も高い魚種の種苗を放流する。 ・ 両地区の定置網事業者は、ウ類による定置網内での食害実態調査の方法（例えば、網起こしの際に食害の様子を写真等に記録する等）について検討する。 ・ 両漁協は、天然ハマグリへの再生に向けてハマグリ稚貝を放流する区域設定について、漁業従事者、漁協、藤沢市、横須賀市で協議する。 ・ 江の島片瀬漁協は、主に潜水漁業、養殖若布漁業、採介藻漁業に従事する組合員が中心となり、磯焼け対策に取り組む。ボランティアダイバー、近隣ダイビングショップ、江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト（EFP）の協力を得る方策についても検討する。 ・ クロマグロ混獲防止のための漁網を導入する。 <p>④ 水産観光</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 江の島片瀬漁協は、定置網見学の実現のため、県内観光業者と提携する。 ・ 訪日外国人による江の島片瀬朝市見学を検討する。 ・ 両漁協は、地元の漁業や水産資源に興味を持ってもらうため、ハマグリ稚貝放流について、地元小中学校を訪問し、児童生徒の参加について調整する。 <p>（2）中核的担い手の育成に関する取組</p> <p>⑤ 中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両漁協は、20～30代の若手漁業者を対象に魅力のあるライフプラン勉強会を開催する。 ・ 江の島片瀬漁協は、自営定置事業を江の島漁業株式会社に事業継承し、同会社は準組合員の従業員のうち、希望者については正社員として採用する。 ・ あしな漁業株式会社は、新規採用に向けかつお・まぐろ一本釣り漁船の導入を検討する。
活用する支援措置等	<p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（①⑤） 水産業競争力強化緊急施設整備事業（②）</p>

	スマート水産業推進事業(②) 水産バリューチェーン事業(②) 水産基盤整備事業<公共>(②) 漁港機能増進事業(②) 水産多面的機能発揮対策(③) 夜間・早朝の活用による新たな時間市場の創出事業(④) 漁業人材育成総合支援事業(⑤) 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(⑤) 広域浜プラン策定支援 広域浜プラン緊急対策事業 (広域浜プラン実証調査)
--	--

2年目 (令和3年度)

取組内容	<p>(1) 機能再編・地域活性化に関する取組</p> <p>① 生産体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両地区の定置網事業者は、大楠市場での共同出荷や漁具の改良による出荷金額の向上効果を調査・分析する。 <p>② 流通加工対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大楠漁協は、江の島片瀬地区の漁獲物受け入れを前提に、水揚量の増加に対応するため、大楠市場の建屋改修を計画する。その際、改修後の直営飲食店事業展開を計画する。 ・ 両漁協は、衛生・鮮度管理を目的に「次世代活水器 ディレカ」を導入する。 ・ 江の島片瀬漁協は、都内の活魚販売業者と調整し出荷先を確保するとともに、キッチンカー、BBQ業者等、仮設の施設で営業する飲食店を誘致する。 <p>③ つくり育てる漁業による生産量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年に引き続き、両漁協は、県が策定した「第7次栽培漁業基本計画」に基づき、ニーズが高く、放流効果も高い魚種の種苗を放流する。 ・ 両地区の定置網事業者は、ウ類による定置網内での食害実態調査の方法を決定する。 ・ 両漁協、藤沢市、横須賀市は、天然ハマグリ再生やサザエ採取体験ツアーの実施に向けた準備を行う。 ・ 両漁協は、天然ハマグリ再生に向けて、指定区域にハマグリ稚貝を放流する。また、必要に応じて、天然ハマグリ再生まで市民が採取しないよう、地元自治会、藤沢市、横須賀市の協力を得て広報する。 ・ 江の島片瀬漁協は、磯焼け対策に協力してくれるボランティアダイバーのための更衣室、仮設シャワー施設の整備及びその費用捻出のための一般ダイバーからの利用料金の徴収及びその経理について、近隣ダイビングショップと調整する。 ・ クロマグロ混獲防止に対応した漁網の運用を本格的に開始する。 <p>④ 水産観光</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 江の島片瀬漁協は、定置網見学ツアー実現のため、県内観光業者と提携する。 ・ 訪日外国人を対象とした「江の島片瀬朝市体験」について、事業者申請を行う。 ・ 大楠漁協は、生け簀と釣り堀を併設したハイブリッド型活魚蓄養施設の計画を立てる。 ・ 両漁協は、地元の漁業や水産資源に興味を持ってもらうため、地元小中学校の児童・生徒の参加を得てハマグリ種苗放流を実施する。
------	---

	<p>(2) 中核的担い手の育成に関する取組</p> <p>⑤ 中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両漁協は、組合の若手漁業者を対象にライフプラン勉強会を開催し、新規採用に向けての組織体制作りを研究する。また両漁協は、地元水産高校と調整してインターンシップ研修の計画を立てる。 ・ あしな漁業株式会社は、新規採用に向けかつお・まぐろ一本釣り漁船の導入の事業者を決定し、中古漁船(条件によっては、新造船)を購入する。
活用する支援措置等	<p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (①⑤)</p> <p>水産業競争力強化緊急施設整備事業 (②)</p> <p>スマート水産業推進事業(②)</p> <p>水産バリューチェーン事業(②)</p> <p>水産基盤整備事業<公共>(②)</p> <p>漁港機能増進事業(②)</p> <p>水産多面的機能発揮対策(③)</p> <p>夜間・早朝の活用による新たな時間市場の創出事業(④)</p> <p>漁業人材育成総合支援事業(⑤)</p> <p>水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(⑤)</p> <p>広域浜プラン緊急対策事業 (広域浜プラン実証調査)</p>

3年目(令和4年度)

取組内容	<p>(1) 機能再編・地域活性化に関する取組</p> <p>① 生産体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両地区の定置網事業者は、大楠市場での共同出荷や漁具の改良による出荷金額の向上効果を調査・分析する。 <p>② 流通加工対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大楠漁協は、水揚量と額の上昇を確認し、仮設市場を建設した後、大楠市場の建屋改修を開始する。また、改修後の直営飲食店事業展開を支援するテナントを誘致する。 ・ 取扱量の増加に対応するとともに、将来的な漁獲証明獲得のため「電子入札」の導入を検討する。 ・ 江の島片瀬漁協は、活魚蓄養水槽保有業者の誘致を図り、活魚取扱量の拡大を図るとともに、キッチンカー、BBQ業者等、仮設の施設で営業する飲食店の定着を図る。 <p>③ つくり育てる漁業による生産量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年に引き続き、両漁協は、県が策定した「第7次栽培漁業基本計画」に基づき、ニーズが高く、放流効果も高い魚種の種苗を放流する。 ・ 両地区の定置網事業者は、ウ類による定置網内での食害実態調査を開始する。 ・ 両漁協、藤沢市、横須賀市は、天然ハマグリ再生やサザエ採取体験ツアーの実施に向けた準備を行う。 ・ 前年に引き続き、両漁協は、天然ハマグリ再生に向けて、指定区域にハマグリ稚貝を放流する。また、必要に応じて、天然ハマグリ再生まで市民が採取しないよう、地元自治会、藤沢市、横須賀市の協力を得て広報する。 ・ 江の島片瀬漁協及びその組合員は、ボランティアダイバー、EFP等の協力も得て、引き続き磯焼け対策を実施する。 ・ クロマグロ混獲防止に対応した漁網の効果を検査・分析する。 <p>④ 水産観光</p>
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江の島片瀬漁協は、定置網見学ツアーを試行する。 ・ 訪日外国人を対象とした「江の島片瀬朝市体験」を実施する。 ・ 前年に引き続き、両漁協は、地元の漁業や水産資源に興味を持ってもらうため、ハマグリ稚貝放流に際して、地元小中学校の児童生徒の参加を得る。 ・ 大楠漁協内にハイブリッド型活魚蓄養施設の設置区域を定める。 <p>(2) 中核的担い手の育成に関する取組</p> <p>⑤ 中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両漁協は、新規採用に向けて地元水産高校と協力してインターンシップ研修を受け入れる。 ・ あしな漁業株式会社は、新規購入したかつお・まぐろ一本釣り漁船の操業を開始し、新規採用した中核的担い手を育成する。
活用する支援措置等	<p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (①⑤)</p> <p>水産業競争力強化緊急施設整備事業 (②)</p> <p>スマート水産業推進事業(②)</p> <p>水産バリューチェーン事業(②)</p> <p>水産基盤整備事業<公共>(②)</p> <p>漁港機能増進事業(②)</p> <p>水産多面的機能発揮対策(③)</p> <p>夜間・早朝の活用による新たな時間市場の創出事業(④)</p> <p>漁業人材育成総合支援事業(⑤)</p> <p>水産競争力強化漁船導入緊急支援事業(⑤)</p> <p>広域浜プラン緊急対策事業 (広域浜プラン実証調査)</p>

4年目 (令和5年度)

取組内容	<p>(1) 機能再編・地域活性化に関する取組</p> <p>① 生産体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両地区の定置網事業者は、大楠市場での共同出荷や漁具の改良による出荷金額の向上効果を調査・分析する。 <p>② 流通加工対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大楠漁協は、大楠市場の建屋改修を完成させる。新市場内で、直営飲食店事業を開始する。 ・ 江の島片瀬漁協は、導入した活魚蓄養水槽保有業者と飲食店のタイアップにより、活魚の安定販売体制を確立する。 <p>③ つくり育てる漁業による生産量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年に引き続き、両漁協は、県が策定した「第7次栽培漁業基本計画」に基づき、ニーズが高く、放流効果も高い魚種の種苗を放流する。 ・ 両地区の定置網事業者は、ウ類による定置網内での捕食調査結果を基に対策を検討する。 ・ 両漁協は、天然ハマグリ再生やサザエ採取体験ツアーの実施に向けた準備を行う。 ・ 前年に引き続き、両漁協は、天然ハマグリ再生に向けて、指定区域にハマグリ稚貝を放流するとともに、再生の状況を調査する。また、必要に応じて、天然ハマグリ再生まで市民が採取しないよう、地元自治会、藤沢市、横須賀市の協力を得て広報する。 ・ 江の島片瀬漁協及びその組合員は、ボランティアダイバー、EFP等の協力も得て、引き続き磯焼け対策を実施する。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ クロマグロ混獲防止に対応した漁網の効果を調査・分析し、必要に応じて改善を図る。 <p>④ 水産観光</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 江の島片瀬漁協は、定置網見学ツアーの試行結果を基に、年間計画を策定してツアーを実施する。 ・ 訪日外国人を対象とした「江の島片瀬朝市体験」の実績を踏まえて、「大楠卸売市場見学」の実施を検討する。 ・ 両漁協は、地元の漁業や水産資源に興味を持ってもらうため、地元小中学校の児童生徒の参加を得て、天然ハマグリ再生状況を調査する。 ・ 大楠漁協は生け簀と釣り堀を併設したハイブリッド型活魚蓄養施設を設置し、釣り堀としての収益性を評価する。その収益性の評価に基づき、江の島片瀬漁協内での釣り堀の経営を検討する。 <p>(2) 中核的担い手の育成に関する取組</p> <p>⑤ 中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両漁協は、地元水産高校と協力してインターンシップ研修を受け入れるとともに、参加者を新規採用に結びつける。 ・ 定置網、かつお・まぐろ一本釣り漁船を軸に、新規採用を継続する。
活用する支援措置等	<p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (①⑤) 水産業競争力強化緊急施設整備事業 (②) スマート水産業推進事業(②) 水産バリューチェーン事業(②) 水産基盤整備事業<公共>(②) 漁港機能増進事業(②) 水産多面的機能発揮対策(③) 夜間・早朝の活用による新たな時間市場の創出事業(④) 漁業人材育成総合支援事業(⑤) 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(⑤)</p>

5年目（令和6年度）

取組内容	<p>(1) 機能再編・地域活性化に関する取組</p> <p>① 生産体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両定置網事業者は、前年度までの業績を基に、収益性の高い定置網事業を確立する。 <p>② 流通加工対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大楠漁協は、大楠市場の建屋改修後の改善状況及び直営飲食事業の収支を検証し、経営に必要な見直しを行う。 ・ 江の島片瀬漁協は、前年度の業績を基に、活魚の安定販売体制を確立する。 <p>③ つくり育てる漁業による生産量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年に引き続き、両漁協は、県が策定した「第7次栽培漁業基本計画」に基づき、ニーズが高く、放流効果も高い魚種の種苗を放流する。 ・ 両定置網事業者は、定置網内でのウチの食害について、行政庁とも相談の上、可能な範囲で対策を講じる。 ・ 両漁協、藤沢市、横須賀市は、天然ハマグリ再生やサザエ採取体験ツアーの業績を分析する。 ・ 前年に引き続き、両漁協は、天然ハマグリ再生に向けて、指定区域にハマグリ稚貝を放流する。両漁協の漁業者は、採取を開始する。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・江の島片瀬漁協及びその組合員は、ボランティアダイバー、EFP等の協力も得て、引き続き磯焼け対策を実施する。 ・クロマグロ混獲防止に対応した漁網の効果を調査・分析し、必要に応じて改善を図る。 <p>④ 水産観光</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江の島片瀬漁協は、前年度の定置網見学ツアーの実績を踏まえ、引き続き年間計画を策定して実施する。 ・訪日外国人を対象とした「江の島片瀬朝市体験」の実績を踏まえて、「大楠卸売市場見学」を実施する。 ・両漁協は、地元の漁業や水産資源に興味を持ってもらうため、地元小中学校の児童生徒が採取した天然ハマグリを、給食に採用してもらうよう働きかける。 ・大楠漁協での実績を踏まえ、江の島片瀬漁協でも生け簀と釣り堀を併設したハイブリッド型活魚蓄養施設を設置する ・両漁協は、釣り堀と漁協直営食堂とのコラボを検討する。 <p>(2) 中核的担い手の育成に関する取組</p> <p>⑤ 中核的担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両漁協は、地元水産高校と協力してインターンシップ研修を受け入れるとともに、参加者を新規採用に結びつける。 ・定置網、かつお・まぐろ一本釣り漁船を軸に、新規採用を継続する。
活用する支援措置等	<p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (①⑤) 水産業競争力強化緊急施設整備事業 (②) スマート水産業推進事業(②) 水産バリューチェーン事業(②) 水産基盤整備事業<公共>(②) 漁港機能増進事業(②) 水産多面的機能発揮対策(③) 夜間・早朝の活用による新たな時間市場の創出事業(④) 漁業人材育成総合支援事業(⑤) 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業(⑤)</p>

(5) 関係機関との連携

なし

(6) 他産業との連携

<p>新鮮、高品質および付加価値の高い水産物は、観光業、飲食業、流通業と連携することにより、都内での知名度向上を図るほか、横須賀・江の島地区への観光客の増加や新たな販路開拓など地域活性化に大きな効果が期待される。</p>
--

4 成果目標

(1) 成果目標の考え方

<p>「大楠市場への水揚物の集約、衛生管理や鮮度の向上、買受人の新規参入の促進等による大楠市場の競争力強化」により、大楠地区と江の島片瀬地区の競争力を強化する。 中核的担い手の育成に関しては、大楠漁協については漁船リースを活用して建造するか</p>

つお・まぐろ一本釣り漁船の乗組員として、正組員2名を増員し、減少傾向にある漁業就業者数の維持を図る。江の島片瀬漁協も現在の漁業就業者数を維持する。

(2) 成果目標

江の島片瀬漁協と横須賀市大楠漁協の主要漁獲対象種の平均魚価の向上を成果目標とする。細部は別添資料による。

サバ類	基準年	平成 26-30 年度 (5 中 3 平均) : 93.4 円/kg
	目標年	令和 6 年度 : 280.8 円/kg (200.5%向上)
ブリ類	基準年	平成 26-30 年度 (5 中 3 平均) : 220.1 円/kg
	目標年	令和 6 年度 : 269.5 円/kg (22.5%向上)
カマス類	基準年	平成 26-30 年度 (5 中 3 平均) : 306.3 円/kg
	目標年	令和 6 年度 : 1167.9 円/kg (281.5%向上)
マダイ	基準年	平成 26-30 年度 (5 中 3 平均) : 2091.9 円/kg
	目標年	令和 6 年度 : 3132.0 円/kg (49.7%向上)
サワラ	基準年	平成 26-30 年度 (5 中 3 平均) : 829.4 円/kg
	目標年	令和 6 年度 : 1009.1 円/kg (21.7%向上)

正組員数

横須賀市大楠漁業協同組合 正組員	基準年	平成 30 年度 : 134 名 (平成 26 年度 150 名から徐々に減少)
	目標年	令和 6 年度 : 132 名 (かつお・まぐろ一本釣り漁船 2 名追加)
江の島片瀬漁業協同組合 正組員	基準年	平成 30 年度 : 35 名 (5 年間変化なし)
	目標年	令和 6 年度 : 36 名 (法人会員 1 名追加)

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

江の島片瀬漁協については、相対取引から大楠市場における共同出荷・せり取引に切り替えることで、魚価の大幅な向上を図る。流通拠点となる大楠市場については、市場の安全面・衛生面の改善と、スケールメリットを活かした仲買業者の増加により、取引価格のさらなる向上を図る。詳細は別添資料のとおり。

正組員数については現状勢力の維持を基本に設定。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
水産業成長産業化沿岸地域創出事業	低燃費の漁船やエンジン、耐久性の高い漁具等への更新を組員に促し、長期的なコストダウンを目指す。
スマート水産業推進事業	生産から流通にわたる多様な場面で得られたデータの連携・共有・活用を可能とする水産業データ連携基盤を構築する。

水産バリューチェーン事業	生産・加工・流通・販売が連携しマーケットニーズに応えるバリューチェーンを構築する。
水産基盤整備事業＜公共＞	災害に強い漁業地域の実現に向けて、漁港施設の地震・津波対策や長寿命化対策等を推進する。
漁港機能増進事業	水産改革に即した水産業の成長産業化に向け、就労環境の改善、漁港利用者の安全性の向上、漁港施設の有効活用等に資する施設の整備
水産多面的機能発揮対策事業	地先資源の持続的な利用管理のため、水産多面的機能発揮対策の採択を受け2項目の事業に取り組んでいる。 (1) 藻場保全活動 種苗の生産、種苗の投入、母藻の設置、食害生物（ウニ類、魚類）の除去 (2) 海底清掃 ダイバーによる海底ゴミの清掃
夜間・早朝の活用による新たな時間市場の創出事業（観光庁予算）	文化庁・環境省と連携し、一定のエリアで、夜間・早朝に地域の観光資源をフル活用。 地域における夜間・早朝の回遊性を高め、訪日外国人旅行消費額の増加や更なる長期滞在に繋げる。
漁業人材育成総合支援事業	漁業・漁村を支える人材の確保・育成を強化する。
水産業競争力強化緊急施設整備事業	大楠市場の耐震工事、鮮度保持施設の改修を行うとともに、組合員の収益力の向上を目的とした直営食堂の設置を検討する。 釣り堀と生け簀を併用したハイブリッド型活魚蓄養施設を設置する。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	新規採用に向けかつお・まぐろ一本釣り漁船を導入する事業者を決定し、中古漁船を購入する。